

令和7年度 全国学力・学習状況調査 教科に関する調査結果及び考察について

保護者の皆様へ

白河市立みさか小学校長

令和7年4月17日に実施しました「全国学力・学習状況調査」の教科に関する調査結果及び考察についてお知らせいたします。

この調査は、学校における児童への教育指導や学習状況の改善等に役立てることなどを目的としています。

調査対象は6年生で、国語、算数、理科の3教科を実施しました。

本校では、教科に関する調査結果とその考察、ならびに指導方法を改善する取組をお知らせし、学校と保護者や地域の方々がともに手を携えて、児童の学力向上や学習環境などの改善に取り組んで参りたいと考えておりますので、ご理解とご協力をお願いします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面の結果であることをご理解ください。

【本校と全国の平均正答率比較】

教科	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
国語	66.8%			○		
算数	58.0%					○
理科	57.1%					○

【国語：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
言葉の特徴や使い方に関する事項	76.9%					○
情報の扱い方に関する事項	63.1%	○				
我が国の言語文化に関する事項	81.2%					○
話すこと・聞くこと	66.3%			○		
書くこと	69.5%	○				
読むこと	57.5%					○

【考 察】

- 「漢字を文の中で正しく使う問題」や、「資料を読み言葉の変化や違いに気づく問題」の正答率が全国平均を大きく上回りました。日々の授業において、漢字の定着確認を継続的に行い、語彙力の向上に努めてきました。また、読書活動の推進や、朝の会でのスピーチ活動を通じて、自分の思いや考えを言葉で表現する機会を大切にしてきたことも成果につながってきたと考えられます。
- 「情報と情報との関連付けや、図などから読み取ったことを説明する問題」や、「書く内容を明確にし、段落関係から文章を考える問題」に課題が見られました。今後は、複数の情報から必要な情報を選んだり、情報を整理したりする活動を通して、判断したり表現したりする力を高められるように指導していきます。

【算数：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
数と計算	62.3%					○
図形	56.2%					○
測定	54.8%		○			
変化と関係	57.5%					○
データの活用	62.6%					○

【考 察】

- 「棒グラフから項目間の関係を読み取る問題」や、「異分母分数のたし算について共通する単位分数を見出す問題」、「図形の性質を基に、コンパスを用いて平行四辺形を作図する問題」の正答率が全国平均を大きく上回りました。日々の授業の中で、分かったことを式や言葉、図などを用いて説明する活動を取り入れてきたことが力につながってきたと考えられます。
- 「測定」の領域では、「はかりの目盛りを読む問題」が全国平均を下回りました。

今後、日常的な場面と関連付けて理解させるとともに、理解したことを友達に説明することで、測定方法等を正しく理解できるような指導を大切にしていきます。

【理科：本校と全国の領域別平均正答率比較】

領域	全国平均正答率	下回っている	やや下回っている	ほぼ同じ	やや上回っている	上回っている
エネルギー	46.7%					○
粒子	51.4%					○
生命	52.0%					○
地球	66.7%					○

【考 察】

- 「エネルギー」の領域では、電気回路の作り方について実験方法を発想する問題や、電磁石の強さの問題の正答率が全国平均を大きく上回りました。これは、実験を通して仮説を立てたり、条件を変えて比較したりする活動を積極的に取り入れ、子どもたちが自ら考え、工夫しながら学ぶ機会を大切にしてきた成果と考えられます。
- 「地球」の領域では、「結果を基に結論を導いた理由を表現する問題」や、「知識を基に概念的に理解しているか問われた問題」に、課題が見られました。知識を活用して、自分の考えを言葉で説明したり、目に見えない科学的概念を言語化して理解したりする力は重要です。今後、観察や実験の結果を根拠にして説明する活動を通して、科学的に考察する力を育てていきます。